

はじめに

1 調査研究の背景

平成21年3月に告示された学習指導要領の改訂においては、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA調査）」など各種の調査から明らかにされた、次のような課題が反映されている。

- ①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題において、無答率が高いという課題が見られる。
- ②読解力に関しては成績分布の分散が拡大し、成績中位層が減り、低位層が増加している。
- ③家庭での学習時間の減少など、学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題が見られる。
- ④自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られる。

特に、教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが重視されている。その実現のためには、「習得・活用・探究」のバランスを取った学習活動の展開が重要であり、高等学校学習指導要領解説の総則では、次のように述べられている。

<高等学校学習指導要領解説総則 第1章 総説 第2節 改訂の基本方針（抜粋）>

②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。

また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

これらのことを踏まえつつ、各種調査の結果から指摘されている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探る調査研究に取り組んだ。

※本冊子においては、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成21年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」として記す。

2 日本史における言語活動の充実

平成21年3月に告示された学習指導要領の地理歴史科における改訂の要点は次の3点である。

①科目相互の関連の重視

②課題を探究する学習を柱とする言語活動の充実

③地図や年表など様々な資料を活用した学習の一層の重視

特に「言語活動の充実」は、各教科等を貫く改善の重要な柱として中教審答申に示された。地理歴史科では言語活動を充実させる柱として、課題を探究する学習の充実が図られた。また、その際には地図や年表など様々な資料を活用した学習を取り入れることが重視されるようになった。日本史A及び日本史Bでは、諸資料を活用して歴史を考察し表現する学習の重視が改訂の柱となり、それに関連する大項目及び中項目が設定された。

<p>〈日本史A〉</p> <p>(1) 私たちの時代と歴史(科目の導入)</p> <p>(2) 近代の日本と世界 ウ 近代の追究</p> <p>(3) 現代の日本と世界 ウ 現代からの探究(科目のまとめ)</p>	<p>〈日本史B〉</p> <p>(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料(科目の導入)</p> <p>(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈</p> <p>(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明</p> <p>(6) 現代の日本と世界 ウ 歴史の論述(科目のまとめ)</p>
---	---

上の表に見るように、各中項目（アまたはウで示す）が通史的な学習内容の中に位置付けられている。これは、今回の改訂で、「導入とまとめの重視による学習内容のより深い理解と確かな定着」が図られているためである。また、日本史Bにおいては、資料を活用する学習を計画的に行うことで、歴史学習にかかわる基本的な技能を段階的に高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付けさせることが図られている。

「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」において、日本史Bに関して示された課題の中に、以下の3点がある。

①複数の資料から情報を読み取り、知識と関連付けて思考する力に課題があると考えられる。

②資料の読み取りの成果を自分の言葉で適切に表現する力に課題があると考えられる。

③時代の特色を大きくとらえる力に課題があると考えられる。

また、教師に対する質問紙調査においても、「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っている」、「学校図書館を活用した授業を行っている」、「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っている」、「観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っている」と回答した教師の割合はいずれも10%未満であり、特に「学校図書館を活用した授業を行っている」と「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っている」と回答した割合は前回（平成15年の調査）の時よりも下がっていた。

以上の点を踏まえ、本調査研究では日本史Bにおいて、資料を活用して、考察したり、その内容を説明したり、自分の考えを表現したりする言語活動を取り入れた実践を行った。

各事例の実践内容は次のとおりである。

事例1 絵画資料の読み取りをもとに、13世紀の社会の様子を表現する授業

『一遍上人絵伝』の読み取りで抱いた疑問について、書籍などで調べ、そこから得られた情報をもとに13世紀の社会の特徴を表現する学習活動を通して、資料の読み取りに対する意欲を高めたり、事象に対する興味・関心を高めたりするとともに、調べたことを表現する力を育成することを目指した。

事例2 18世紀の人々の生活の様子について、複数の資料を組み合わせて考察する授業

18世紀の人々の生活を題材に、それに関連する複数の資料から読み取れる情報を関連付けて、生活の様子について考察し、発表したり文章で表現したりする学習活動を通して、事象に対する興味・関心を高め、事象に対する多面的・多角的な見方を育成することを目指した。

事例3 地域の歴史に関する資料の読み取りをもとに、社会的背景について考察し、表現する授業

学制が地域社会にどのような影響を与えたかについて、栃木県内の資料を活用して、資料の内容を読み取り、社会的背景を考察する学習活動を通して、学習内容に対する興味・関心を高めることを目指した。

<研究協力委員>

栃木県立益子芳星高等学校	教諭	福田 智保
栃木県立烏山高等学校	教諭	藤井 啓太
栃木県立さくら清修高等学校	教諭	金沢 誠

<研究委員>

栃木県総合教育センター研修部	指導主事	豊住 隆行
----------------	------	-------